

第十八日目

師 範：源氏の将軍は頼朝と頼家と実朝の3代で終わってしまいました。

このとき後鳥羽上皇は、執権となって権力をにぎる北条氏と幕府を倒そうと命令し、兵をあげました。



北条氏は東日本の武士に支持されて、京都を攻めて勝利しました。

関東の武士の力が西日本に及ぶようになり、北条執権政治は全国政権となりました。

1221年 承久の乱がおこる。

この年を覚えましょう。

コン太：これはむずかしい。



「承久の乱で一石二鳥の不意打ち作戦」

というのはいかがでしょうか。

師 範：「一石二鳥」で12を表し、「不意」で21を表すのですね。

苦労したあとがわかります。

すこし飛び飛びで難ありというところでしょうか。

ペン太：ぼくは、1と2しかないから、

そのまま覚えられるから、つくらない。



師 範：いい口実をみつけたね。

コン太：これはどうでしょうか。

「京都の人に不意に襲われた北条氏」

「ひとに」が12で、「ふい」が21です。

5月15日、京都の後鳥羽上皇に追討の命令を出された執権北条義時は、さぞかしあわてたことでしょうね。

師 範：北条政子は5月19日に御家人を集めて大演説をして結束を固めました。

その3日後に鎌倉を出発して、25日をかけて京都へ向かいました。

その日のうちに後鳥羽上皇は義時追討の命令を取り消してしまう。

乱は1か月で終わったといわれますが、それもほとんどが移動期間でした。

ペン太：ぼくは「承久の乱は12の裏返し」でいいよ。